2005 三者春の総会 議事録

文責: 2005 三者事務局 名古屋大学

2005.3.26 春の学会 @ 東京理科大学

1　2005 年度三者センター校からの報告 (センター校：東京工業大学)

2005 年度三者センター校より予算案が報告され、それらすべての予算案は承認された。なお、原子核談話会との交渉の結果、承認されたことも合わせて報告された。

Q. 領収書をすでに切ってしまい、宛名が『原子核三者若手』ではないがどうすればよいか。

A. すでに切ってしまった領収書の宛名が、異なっているのは仕方がない。

2　2005 年度三者準備校からの報告 (準備校：大阪大学)

2005 年度三者準備校より、2005 年度夏の学校に関する現在までの活動状況が報告され、すべての報告は承認された。

さらに新たな報告として、以下のことが報告された。

- 議案書に書かれている食事料金は、正確ではないのでオリンピックセンターの HP を見ること。
- 講義および研究会についての時間割は暫定的なものであるので、パート準備校に時間割は決めてもらう。
- 参加費は一律３０００円に設定しているが、当日参加者については変更することを考えている。

3　DC アブストについて (京都大学)

現在 DC アブストが機能していないという事実を受けて、前回より存在自体が議論されている。(DC アブストに関する今回の議論は前回 (三者総会@秋の学会) の議論に続くものである。なお前回の議論については議案書および、議事録を参照して欲しい。) そこでさらに今回、京都大学によって DC アブストについての議案が提出され、存続の是非について議論された。

DC アブストの現在の活動内容は主に次の 3 つである。

A. 夏の学校に限定せず、自分の研究の紹介

B. 自分達の研究室の紹介

C. 夏の学校の研究会報告

これらの活動内容が、 DC アブストの活動としてふさわしいか否かについて議論され、以下のように結論された。

A. 三者若手として機関誌に投稿するのではなくて個人で行うのが妥当である。

B. 機関誌に投稿するまでもなく三者若手の HP に Link を貼っておくだけで十分である。

C. 原子核パートは、すでに DC アブストの活動とはまったく別のものとして、研究会の口頭発表者に対して、発表内容を Proceedings を書くことを要請し、まとめたものを『原子核研究』に投稿しているため、三者若手としてまとめるのではなくて、各パート別に機関誌に投稿するのが妥当である。

このような背景から、現在の形式での DC アブストは存続する意義がないのではないかという結論に達した。

Q. 仮に Proceedings にしたとして、集まるのか?

A. 原子核の実績によれば、集まっているので集まると思われる。

ここまでは、DC アブストの内容について議論されたが、『ではそもそも DC アブストの本来の目的は何だったのか?』という質問が出た。設立当時の背景を詳しく知る人が出席していなかったため、厳密なものはわからないが『ドクターの学生が、自分の研究内容を YONUPA の人たちにアピールする』ことを大筋の目的として、DC アブストは設立されたと考えられる。この本来の目的を詳しく知りたい場合は、過去の役職校の方に尋ねるか過去の YONUPA ML のメールを参照して欲しい。

以上、春の学会における三者総会では

- DC アブストは廃止する。これは夏の学校の三者総会で承認してもらう。
- DC アブストに変わる、例えば原子核パートのような『研究会報告』を行うかどうかは各パートで議論してもらい、三者全体としては関与しない。

ということにまとまった。
また、今年の活動については以下のように決まった。

- 今年も従来の形式で集めることにする。
- 今年の結果を受けてセンター校が夏の学校で春の学会の議論を説明し、廃止に対する承認を行う。